

2018 年度第 1 回支部集会【九州・沖縄支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

共催：公立大学法人福岡女子大学 協力：九州日本語教育連絡協議会

開催日：2018 年 6 月 30 日(土)・7 月 1 日(日) 会場：福岡女子大学大学

参加者：180 名（会員 94 名・一般 86 名）

支部活動委員会が発足してから 2 年目の支部集会が、改築後間もない美しく快適な福岡女子大学の校舎で行われました。雨が降ったりやんだりの安定しない天気の中、遠くは東北地方、海外から両日合わせて 180 名という多くの方々にご参加いただきました。

九州・沖縄支部は例年 2 日間にわたって支部集会を開催しており、今年は 1 日目に講演、研究発表を、2 日目にワークショップ、委員企画の地域日本語教育紹介、交流ひろばを行いました。また、両日にわたって、チャレンジ支援委員会とのコラボ企画の発表応募支援セミナー、さらに賛助会員ブースでは賛助会員 3 社による書籍販売を行いました。

講演とワークショップの講師には、龍谷大学名誉教授の田尻英三先生をお招きしました。今年度は九州・沖縄支部集会のテーマを「日本語教育施策と地域の日本語支援を考える」学びの交流会とし、田尻先生には政府の施策や外国人労働者受け入れなど、日本語教師が知っておくべき日本語教育をとりまく環境を時間の流れを追いながらご説明いただきました。折しも支部集会開催直前の 6 月 15 日に日本語教育の今後の方向性を左右する閣議決定がなされたこともあり、最新の情報を取り入れながらのタイムリーな話題提供となりました。



「田尻先生の熱の入った講演」



上下「ワークショップ」

1 日目の講演の後には、研究発表の口頭発表とポスター発表を行いました。今年度は研究発表が 8 件（口頭発表 3 件、ポスター発表 5 件）あり、会場では活発な意見交換が行われました。また、ポスター発表と同時時間帯に、チャレンジ支援委員会による発表応募支援セミナーを行いました。前半は全体に向けてのセミナー、後半は個別相談が行われ、参加者は黄色いはっぴ姿のチャレンジ支援委員の話に耳を傾けていました。1 日目の全てのプログラムが終わった後は、大学内のホールで懇親会を行い、食べきれないほどの料理と、参加者からお土産としていただいたお酒やお菓子を堪能しながら親睦を深めました。

2日目は、引き続き田尻先生のワークショップを行いました。初日と変わらず多くの方にご参加いただきました。ワークショップ後の昼食時には、1日目よりも短縮版にはなりましたが、チャレンジ支援委員会による発表応募支援セミナーを開きました。午後には、支部活動委員の企画として地域日本語教育紹介のセッションを設け、福岡市で活動する3つの団体、「福岡市日本語サポートセンター」「NPO 法人ともに生きる街ふくおかの会」「福岡 YWCA」の方にお越しいただき、外国にルーツを持つ児童・生徒への日本語支援や進学相談、教員の派遣状況など、それぞれの団体の活動内容、課題などをご紹介いただきました。その後、最後のプログラムとして交流ひろばを行いました。遠方から来ている参加者も多く、交流ひろばの参加者は少なくなるのではないかと危惧していましたが、時間ぎりぎりまで多くの参加者が交流ひろばの展示者と情報交換を行っていました。昨年度は交流ひろばとポスター発表を同じ時間帯で実施していて、参加者から「全てのブースをみたかったが時間がなくて見られなかった」との意見があったので、今年度は9件あった交流ひろばを2つに分けて時間帯をずらして実施しました。その効果があったのか、最後まで交流ひろばに参加者の足が絶えることはありませんでした。



「ポスター発表」



「交流ひろば」



「地域日本語教育紹介」



「発表応募支援セミナー」

本年度は地域日本語教育紹介を取り入れたこともあり、普段の支部集会ではあまり見られない、高校の教員やボランティアの方の参加もありました。また、アンケートの記述に「地域の日本語教育紹介を続けてほしい」「他地域の日本語教育事情が知れてよかった」などの記述もあり、支部集会が地域で果たす役割が感じられる会となりました。

支部集会開催にあたり、会場校の福岡女子大学の先生方には準備、運営に多大なるご協力をいただきました。また、当日の参加者や関係者の皆様のご協力により、無事に支部集会を終えることができました。心より感謝申し上げます。

(支部活動委員会委員 吉川達・山元淑乃)